

候ても田地あらし不申候所々郡奉行衆より堅相改、奉公人村中にあて可申事。

一、諸奉公人先主より相對にて奉公仕外、不立歸もの深相改、奉公人渡奉行より別主人に可被相渡事。

右之條々急度可被相改旨、重而被仰出候。先知より普代年記に召置候給人並百姓斷、御公事場にて被聞届被申渡候尤候。以上。

(寛文十八年)  
巳二月廿一日

右之外書狀にて申遣覺

一、御奉行より奉公人相渡候儀。はか取不申に付、相對にて給銀御定之外過分に召置候者之儀も、主人より奉行所へ遣之、給金相究候様に与被仰出候事。

一、給銀御定に付而、奉公人早速不罷出見合、三月末にも罷出候もの、儀は、年中之給銀致月割、引候て可相渡之旨、是又可被仰觸候事。

二月廿一日  
本多安房守殿

今 枝 民 部

横山山城守殿  
奥村 因幡殿  
奥村河内守殿

二九 年貢未進方に召仕  
百姓之儀伺

一、少分之未進方に數年召仕申者は、此度暇を出申様に可渡旨奉存候御事。

朱書。書上る通尤に候。

一、大分之未進方に召仕申者は、一年切奉公人召置候給銀並に致算用、未進に應年數召仕候様可申渡候哉之御事。

朱書。前同斷。

一、少分之借物方に數年召仕申者も、今度返し置申様に申渡候御事。

朱書。前同斷。

一、百姓之せがれ、先給人手前未進分に奉公いたさせ申候所、未進も相濟、近年は若黨に仕、一年切之奉公人並給銀を遣召置候者、主人に無斷當年罷出者も御座候。又者相對

にて居成奉公仕度と申者も御座候。(小忠)當御地並金澤にも御座候御事。

朱書。相對にて奉公仕候はゞ可召置候。其身仕間敷由及斷候者出し可申候。此以來不斗草履取待にいたし候事仕間敷候。左様に仕候はゞ百姓有之間敷候。

一、越度御座候者成敗可仕旨、其身・諸親類違而訛言仕、年記(年記)或は譜代之證文仕申もの、如何可申付候哉之事。

朱書。遠吟味越度に究候はゞ、成敗も可仕候。品により普代にも可召仕候。少分之科を大分に申成、普代又は成敗仕儀有之間敷候。

一、先給人方にも一年切に奉公仕候得共、年を重有之候者は、暇を遣し不申者も御座候御事。

朱書。一年切に相定候所、左様之申分不相届儀に候。

一、去年より奉公仕、當年之給銀迄請取居成罷在者、又は當給人方に去未進方に召仕申者も御座候御事。

朱書。奉公人相對にて給銀を請取候者、又者當給人方未進分に召置候はゞ、其通に可申付候。

一、未進方に普代之奉公可仕与證文仕置候所、二三ヶ年後

より一ヶ年切奉公人並に給銀を遣召置候處、此度罷出百姓仕度と申斷者も御座候御事。

朱書。未進分も相濟、一年切奉公人並に給銀を遣し候上者、任斷出し可申候。

右之趣如何可申付候哉奉伺御意候。以上。

二月十六日

中 孫右衛門  
山 本文 四郎  
松崎三郎左衛門

右之通小林檢校奉にて被仰出。

三〇 家中奉公人暇遣候者  
之儀御定

覺

一、能美・新川兩郡より、此跡々召置候小者草履取、至當春以相對居成に召仕候外、暇を遣候人々、其者之名、在所之村付并請人之名隨書記、急進當御郡奉行に可被相渡候。當町中者共之儀は、町御奉行に書付可被出事。

一、右暇を乞當春出候もの、郡・居在所於不知者、請人之在